

平成 24 年度（2012 年度）
事業報告書

自 平成 24 年 4 月 1 日
至 平成 25 年 3 月 31 日

公益社団法人日本コントラクトブリッジ連盟

目 次

概 況	1
1. はじめに	1
2. 連盟全体	1
3. 事業別基本方針	2
I. 競技会事業（公益目的事業 1）	6
1. 競技会の主催（公益目的事業 1.1）	6
2. 競技会運営環境の整備（公益目的事業 1.2）	9
3. ディレクターの養成（公益目的事業 1.3）	9
4. 競技会事業管理（公益目的事業 1.9）	9
II. 普及事業（公益目的事業 2）	11
1. 体験イベントの開催（公益目的事業 2.1）	11
2. 講習会等の開催（公益目的事業 2.2）	13
3. 体験教室・講習会等の実施支援（公益目的事業 2.3）	15
4. 広報（公益目的事業 2.4）	19
5. 普及事業管理（公益目的事業 2.9）	20
III. 国際交流事業（公益目的事業 3）	21
1. 国際競技会の主催（公益目的事業 3.1）	21
2. 国際競技会への代表派遣（公益目的事業 3.2）	21
3. 国際的競技団体との交流（公益目的事業 3.3）	22
4. 国際交流事業管理（公益目的事業 3.9）	22
IV. 収益事業等	23
1. 公認（収益事業等 1）	23
2. 商品販売（収益事業等 2）	24
V. 管理部門	25
1. 会員・会友	25
2. 理事会・会員総会	26
3. 組織運営	27
4. 企画委員会	28
5. センター協議ワーキンググループ	28

概 況

1. はじめに

平成 24 年 4 月 1 日、日本コントラクトブリッジ連盟は公益社団法人としての設立登記を行い、新たなスタートを切った。公益社団法人としての初年度である平成 24 年度は、前年度に改定した新たな定款のもと、より一層公益に資する事業運営に必要な基盤づくりに努めた。公益法人化に伴い、事業区分を事業部単位から事業部門単位に再編した。競技会事業部、普及事業部、国際交流事業部の活動内容はほぼ従来どおりであるが、事業区分の再編に伴い、一部の事業部では複数事業（区分）にまたがって業務を担当することとなった。公益社団法人になってからの初めての事業報告となる本報告書では、この新しい事業区分に沿って報告する。

まず、以下に、平成 24 年度事業計画の基本方針に沿って事業活動の概況について述べる。

2. 連盟全体

平成 24 年度は、連盟全体として次の 3 点を事業活動の基本方針として掲げた。

「公益法人化に伴う組織改革の一環として導入した業務執行理事制度を軸とする新たな業務執行体制を軌道に乗せ、公益社団法人として、これまで以上に公益性に資する事業運営に努める。」

平成 24 年 5 月 26 日、役員改選後に初めて開催された理事会において、理事の役職及び担当について互選を行い、以下のとおりに決定した。業務執行理事には 7 名が就任した。

会長／代表理事：	細田博之
会長代行／代表理事：	鳩山勝郎（人事委員長、九州担当）
副会長／業務執行理事：	山口知也（APBF コンgress福岡大会担当）
業務執行理事：	兼岩芳樹（総務担当）
業務執行理事：	ロバート・ゲラー（競技会担当）
業務執行理事：	齋藤陽子（普及担当）
業務執行理事：	島村京子（普及担当）
業務執行理事：	中谷忠義（競技会、国際交流担当）
業務執行理事：	山田和彦（企画委員長）
理事：	神代高弘
理事：	寺本直志（競技委員長）
理事：	久富浩（代表選抜委員長）
理事：	平田眞

ルール委員長には役員以外から宮内宏氏を指名した。

6 月 15 日、鳩山勝郎会長代りを議長に第 1 回業務執行会議を開催し、業務執行理事制度を軸とする新たな執行体制を開始した。

「APBF コンgress福岡大会を開催し、コントラクトブリッジを通じた国際交流を図るとともに、この機会を活用して九州のみならず、全国的なブリッジの普及と認知度向上を目指す。」

平成 24 年 8 月 25 日から 9 月 2 日までの 9 日間にわたり、「第 7 回アジアパシフィッ

ク・ブリッジコンGRESS福岡 2012」を開催した。本大会は、日本初のコンGRESS、首都圏・阪神地区以外で開催する初めての国際大会、参加資格を APBF 以外の WBF 加盟国・地域にも初めて開放したオープン化大会であるなど、本連盟としても初めての経験となることの多い大会であった。

日程の確定が遅れていた第 2 回ワールドマインドスポーツゲームズの会期が本大会の直前となったため、その影響で海外からの参加数が懸念されたが、本戦チーム戦には海外から 4 カテゴリーの合計で 30 チーム余りの参加があり、合計参加チーム数は 57 チームと予想の 60 チームを若干下回るにとどまった。また、サイドゲーム及び併催された普及体験イベント『福岡ブリッジ祭り』では概ね予想通りまたは予想をやや上回る参加者、来場者を記録し、無事成功裡に閉幕した。九州支部及び地元の福岡委員会の尽力で実現した歓迎パーティー「はっぴーサマーナイト」その他の催し物は国内外のプレイヤーに好評で、ブリッジを通じた国際交流という側面において一定の成果を得ることができた。

大会結果の詳細は、別紙報告書を参照されたい。

「中長期事業計画立案体制の変更に伴い、第 2 次 5 ヶ年計画に盛り込まれていた方針と 4 年にわたる実施期間における成果及びその間に浮き彫りとなった新たな課題を検証し、事業部ごとに中期計画を再検討する年度と位置付ける。」

普及事業部では、第 2 次 5 ヶ年計画の 4 年にわたる成果及びその間に浮き彫りとなった新たな課題を反映し、平成 25 年度を初年度とする新たな中期計画を策定した。今後 3 か年のスローガンを「気楽に遊ぼう！コントラクトブリッジ」とし、数値目標として「3 年後(平成 27 年度末)の会員・会友数 8,000 人」を掲げた。

3. 事業別基本方針

(1) 競技会事業（公益目的事業 1）

「NEC ブリッジフェスティバルを含め、主催競技会の運営においては、世界各国から高い評価を受けている大会運営ノウハウを生かして質の高い競技会の提供に努めるとともに、担当ディレクターや参加者からの意見やニーズを収集して問題点や課題の把握に努め、迅速に対応していく。」

1998 年神戸大会以来 14 年ぶりに APBF 大会を誘致開催した。長年にわたって NEC ブリッジフェスティバルを開催してきたことで培ってきた運営経験を活かし、無事成功裡に終了し、参加者からも好評を得ることができた。

NEC ブリッジフェスティバルは例年 2 月に開催しているが、平成 25 年は 4 月に Yeh Bros 杯と日程を連続させて開催することになったため、今年度は開催しなかった。

「中長期的な課題として、よりよい競技機会を広く提供するためには、競技環境を改善し、充実させていくことが重要である。本年度は、この認識のもと、環境のさらなる改善のための具体的な方策を検討する。」

JTOS とブリッジメイトを使用することにより、迅速で正確な競技会結果の集計を行っている。一部競技会で備品不足により、全参加者が共通ボードをプレイできていない状況があったが、ボードを追加購入することにより一部改善した。

一部競技会が土曜日 12 時開始であったが、本年度より地方からの参加者に前泊費用を

補助し、開始時間を 10 時 30 分に統一した。

「競技会運営管理システムの整備・改善に努める。競技会運営ソフト（JTOS）の保守を継続し、新バージョンをリリースするとともに、ブリッジメイトシステムの貸与及び導入支援を継続する。」

JTOS 製品版（Ver3.1）を平成 25 年 3 月にリリースし、ウェブサイトからのダウンロードまたは CD 郵送という形で配布した。

製品版リリースは平成 23 年 8 月以来だが、主にブリッジメイト使用に関する機能を改良したバージョンを、ブリッジメイトを導入済みのブリッジセンターに対して随時提供した。

「ディレクター講習会を継続し、競技会運営のレベルアップを図る。ナショナルディレクター養成プログラムは奇数年に隔年で実施することになったため、本年度は実施しない。」

ナショナルディレクター養成プログラムは隔年開催のため実施しなかった。クラブディレクター養成のため講習会を開催した。

(2) 普及事業（公益目的事業 2）

「公益法人化に伴う業務執行理事制度の導入と部会制度の廃止及び事業部長交代を踏まえ、事業部の運営体制全般を見直し、新たな枠組みの普及事業実施体制を整備する。」

4 月 1 日に着任した清水新普及事業部長の下、新たな事業実施体制を整備した。

「前年度で終了した第 2 次 5 ヶ年計画の成果を踏まえて、計画の進捗や達成が明確となるよう定量的な目標を設定した新たな中期計画を策定する。」

平成 25 年度を初年度とする中期計画を策定し、定量的な目標を設定した。その中で普及対象と活動地域や場を絞り、継続事業と新規事業それぞれで重点項目を定めることとした。

具体的には 20～30 代への普及を最優先にした費用配分とし、ネット上にもブリッジの場を拡げ、20～30 代の興味を喚起して実際にプレイしてもらい、向上心が芽生えてきたら、入門書や講習会などの受け皿で競技会のおもしろさを徐々に伝えていき、結果として会友拡大を図るものとした。それを受けて一般向けパンフレット、体験教室用マニュアル、テキストや教材などの改訂に取り組むこととした。また、現行会友の中心層をなすシニア世代へは、ブリッジの固定ファンとして定着するよう、豊かなブリッジができる楽しい場を提供することとした。

「前年度から検討中である「現場ニーズを反映した普及基盤の拡大の実現」を目的とする「拡大普及ネット構想」は、上記の枠組みの中で引き続き展開する。」

新たに作成した中期計画に基づく普及活動の中で、普及ネットの在り方を見直した。現場ニーズを反映するため、講習会標準テキストや入門書の作成及び公認資格制度の導入に関する検討を行った。

「APBF コングレス福岡大会という注目度の高い機会を最大限活用して効果的な普及広報活動を展開し、マインドスポーツとしてのコントラクトブリッジの認知度向上と併催普及イベントへの集客を図る。大会終了後は認知度調査を実施し、平成 22 年度に実施した前回調査の結果と比較し、今後の普及広報事業戦略に役立てる。」

上記大会の中で普及イベント『福岡ブリッジ祭り』を開催し、マインドスポーツ体験教室や初心者大会などに広く一般からの来場者を誘致した。大会終了後に認知度調査を実施したが、開催地福岡において若干の認知度向上が認められたものの、開催地以外ではほとんど変化がなかった。この結果を受けて、広報事業戦略の全面的な見直しを行い、平成 25 年度の事業計画に反映した。

「NEC ブリッジフェスティバル体験イベントなどで培ったノウハウを生かし、マインドスポーツ体験教室及び初心者向け競技会を軸に、ブリッジをよく知らない人々に楽しんでいただける普及イベントを企画・実施する。」

広報事業戦略の全面的な見直しにより、PR 目的の新たな普及イベントは企画しなかった。一方で、プロモーション目的のイベントに注力し、普及ターゲットをセグメント分けして効果的な普及活動を実施した。

「普及現場におけるニーズが高い入門レベル教材の改訂または新規作成に取り組む。」

一般向けパンフレット、体験教室用マニュアル、テキストや教材などの改訂に取り組んだ。

「雑誌、新聞などの印刷媒体を使った広報・広告展開については、前年度と同様、対象を絞って継続的に展開する。」

広報事業戦略の全面的な見直しにより、PR 目的のイメージ広告からプロモーション目的の企画広告にシフトした。また体験教室や普及イベントに関する告知広告は前年度同様の展開を継続した。

「昨年導入した CMS（コンテンツ管理システム）を活用したウェブサイト広報の強化を図る。」

ウェブサイトにおいて普及通信を公開することで、広く一般に普及活動を周知した。また CMS 導入によって、プレスリリースやイベント報告などもタイムリーに実施できたため、ウェブサイト広報が効率的に進められるようになった。

(3) 国際交流事業（公益目的事業 3）

「APBF コングレス福岡大会を開催し、アジア太平洋地域内におけるブリッジの普及と発展、並びにブリッジを通じた国際交流に努める。本大会は、APBF 選手権としては初めて、参加資格が APBF 以外の WBF 加盟国・地域に開放されるとともに、多国籍チームでの参加が可能なオープン大会として開催されることとなった。オープン化に伴う留意点を含め国際競技会運営ノウハウの一層の集積に努め、共有化を図る。」

平成 24 年 8 月末から 9 日間にわたって開催した APBF コングレス福岡大会には、本戦だけでなくサイドゲームにも国内外から多数のプレイヤーが参加し、無事成功裡に閉幕した。本大会は、日本初のコンGRESS、首都圏・阪神地区以外で初めて開催する国際大会、APBF 以外の WBF 加盟国・地域にも参加資格を開放したオープン化大会であるなど、本連盟としても初めての経験となることの多い大会であった。本大会での経験と教訓を生かし、蓄積したノウハウを今後の大会運営に生かしていく。

「中期的な目標としてアジア競技大会でのブリッジ種目採用を掲げ、APBF 加盟国・地域の NBO、特に地域内の有力国・地域である中国、チャイニーズ・タイペイ、韓国との連携を強化し、マインドスポーツとしてのブリッジの普及・発展に努める。」

本年度も例年どおり上記方針に従い事業活動を行った。特記事項としては、前年度より協議・検討を進めていた Yeh Bros 杯の日本開催協力計画の詳細を詰め、平成 25 年 4 月に NEC ブリッジフェスティバルと連続する形で開催することに決定した。

(4) 収益事業等

① 公認事業（収益事業 1）

「公認事業関連業務の見直しを行い、システム化、効率化を図る。」

競技会の結果報告を JTOS で送信してもらうことにより、競技会のすべてのデータを入手でき、マスターポイント発行、公認料・割引の集計を一元的に行っている。参加者のニーズにあった競技会を提供していくため、参加者データを収集している。

② 商品販売事業（収益事業 2）

「APBF コングレス福岡大会関連グッズを開発、大会で活用する。」

既に制作済みであった、大会記念スコアブック、ロゴシール、ロゴ缶バッジ、クリアフォルダー、ボールペン等に加えて、記念カードを製作し、記念品として関係者に配付したほか、ホスピタリティデスクで販売した。

「在庫管理や販売方法など関連業務の効率化を図る。」

在庫管理やウェブからの商品申込に対するの回答を自動化することを検討している。

(5) 管理部門

「事業区分及び業務執行体制の再編に伴う新体制のもと、公益社団法人に相応しい運営体制の確立と強化に努める。」

改定後の定款に基づく新体制においては、事業運営における意思決定において理事会が従来以上に重要な役割を担うとともに、業務執行理事が事業運営に参加することとなった。この新しい環境下、理事会及び企画委員会では、公益社団法人に相応しい組織運営体制の確立と強化という観点から、重要課題の洗い出しと対応策の検討に取り組んだ。

本年度は、近年急増しつつあるシニア層を対象とする参加料割引制度の在り方、複雑化しわかりづらくなっている会友制度の見直し、ブリッジセンター及びブリッジクラブの在り方及び JCBL との関係の在り方、公認料制度の見直し、消費税引き上げに対する対応策などが優先順位の高い課題として浮上した。これらの課題に対応するため、理事会直下及び企画委員会内に 2 つのワーキンググループを設置し、それぞれ、対応策の検討や関係者との協議を進めている。

公益法人化に伴い、文言や表記、現状には合致しなくなった条例の確認等を中心に、諸規則の見直しを再度行っている。この作業は来年度中に終了する見通しである。

「事務局業務の改善に引き続き取り組み、新体制に沿った業務遂行及び管理体制の構築、業務の効率化を目指す。」

業務管理体制の改善と強化のため、業務評価シートの様式を変更するとともに、管理職以上の職階の職員を対象に業務月報による報告システムを導入した。業務担当の見直しと変更、並びに、業務効率化のための具体策については来年度に持ち越した。

I. 競技会事業（公益目的事業 1）

1. 競技会の主催（公益目的事業 1.1）

① 主催競技会

- 本年度は以下の競技会を主催した。

競技会名	日 程	開催 日数	場 所	参加 卓数	前年度
1) ナショナル競技会（全国大会）					
玉川高島屋 S・C 杯	4 月 21、22 日	2 日	玉川高島屋/ 四谷 B C	94 卓	87 卓
全日本地域対抗選手権 （関東予選）	5 月 12、13、 19、20 日	4 日	四谷 B C	104 卓	107 卓
藤山杯（予選・決勝）	7 月 7、8 日	2 日	四谷 B C/ 高田馬場 B C	109 卓	116 卓
外務大臣杯（予選・決勝）	7 月 28、29 日	2 日	四谷 B C	48 卓	58.5 卓
高松宮記念杯	9 月 15～17、 22、23 日	5 日	四谷 B C/ 五反田 B S	101 卓	107 卓
全日本女子ペア選手権 （予選・決勝）	10 月 13、14 日	2 日	四谷 B C/ 渋谷 B C	105.5 卓	115.5 卓
高松宮妃記念杯（予選・決勝）	11 月 3、4 日	2 日	四谷 B C	83.5 卓	90 卓
NISSAN ブルーリボン杯	12 月 22 日	1 日	四谷/五反田 名古屋/大阪	98 卓	108 卓
エンゼル・レッドリボン杯	12 月 22 日	1 日	四谷 B C/大阪 B C	38.5 卓	37 卓
朝日新聞社杯	1 月 12～14 日	3 日	四谷/五反田 高田馬場/渋谷	153 卓	160 卓
玉川高島屋 S・C 杯 （2014 年度前倒）	3 月 30、31 日	2 日	玉川高島屋/ 四谷 B C	90 卓	---
2) 日本リーグ					
1 部	} 前期：4・6 月 後期：12・1 月	4 日	四谷 B C	16 卓	16 卓
2 部		4 日		24 卓	24 卓
3) リジョナル競技会					
柳谷杯	4 月 7、8 日	2 日	四谷/五反田 高田馬場	126 卓	116 卓
サントリー杯	4 月 29 日	1 日	四谷/横浜 名古屋/大阪	95.5 卓	108 卓
井上杯（予選・決勝）	5 月 26、27 日	2 日	四谷 B C	46 卓	52 卓
井上歌子杯	5 月 27 日	1 日	四谷 B C	18 卓	23.5 卓
モンタルト杯	7 月 14、15 日	2 日	四谷 B C	33 卓	36 卓
福岡チームリジョナル	8 月 30、31 日	2 日	ヒルトン福岡	15 卓	---
福岡ストラティファイドペア	8 月 31 日	1 日	ヒルトン福岡	11 卓	---
福岡市長杯	9 月 1、2 日	2 日	ヒルトン福岡	60 卓	22 卓
テレビ西日本杯	9 月 2 日	1 日	ヒルトン福岡	58 卓	25 卓
丸の内杯（予選非開催）	9 月 8 日	1 日	四谷 B C	4 卓	5 卓
夏季シニアペア	9 月 8 日	1 日	四谷 B C	14.5 卓	17 卓
夏季シニアチーム	9 月 9 日	1 日	四谷 B C	12 卓	12 卓
萩原杯	9 月 29、30 日	2 日	四谷 B C/ 高田馬場 B C	92 卓	90 卓
服部杯	12 月 5 日	1 日	在首都圏 B C	146.5 卓	160 卓
新年リジョナル	1 月 6 日	1 日	四谷 B C	24 卓	非開催
春季リジョナル	3 月 16、17 日	2 日	四谷 B C	29 卓	32 卓
渡辺杯	3 月 23、24 日	2 日	四谷 B C	49 卓	48 卓
4) 社会人リーグ 社会人 IMP リーグ	11 月～3 月		各会場	14 卓	15 卓

- 本年度も地方からの参加者に対する交通費・宿泊費の助成を実施するとともに、前年度優勝者を招待した。本年度より、土曜日開催の連盟主催競技会への地方からの参加者を対象に、前日宿泊の場合の宿泊費補助制度を新設した。

内訳：交通費補助・前泊補助の対象はチーム戦 5 競技会 24 チームと、ペア戦 3 競技会 32 ペア、補助総額は 349 万円。

- 本年度より、ナショナルレイティング競技会（チーム戦）の地方代表選抜試合のレイティングをすべてセクショナルとした。
- 本年度より、連盟主催競技会の上位入賞者に対する賞品に選択肢を追加した。
- 日程及び会場の都合で平成 25 年 4 月開催予定の玉川高島屋 S・C 杯を今年度末に開催したため、同競技会は同一年度に 2 回の開催となった。
- 参加者数が全般的に例年より減少している。これは、8 月に APBF 福岡大会を開催したため開催日程が変更となった競技会が複数あったことや、APBF 福岡大会の本戦やサイドゲームに参加するためにプレイヤーの競技会参加予定が例年と異なったことなどが、少なからず影響している可能性がある。
- ジュニア、ユース、シニア会友向けの参加料割引サービスを引き続き実施した。主催競技会事業分は競技会数が限られているため大きな金額ではないが、公認事業分の割引関連負担は年々拡大しており、今年度は約 2,500 万円に達した。これは連盟の収支を大きく圧迫しており、今後も増加していくことが予想されるため、会費制度と併せて制度全体を見直すことにした。

② NEC ブリッジフェスティバル

- NEC ブリッジフェスティバルは例年 2 月に開催しているが、平成 25 年は Yeh Bros 杯と日程を連続させて開催することになったため 4 月に延期となり、今年度は開催しなかった。
- 会期が延期になったことに伴い Biglobe シリーズの開催期間を 2 ヶ月延長し、当初計画していた 12 月末時点での上位 12 名及び地方在住の上位 4 名に加えて、2 月末時点での上位 6 名を飛鳥杯に招待することとした。

③ 九州地区（福岡ブリッジプラザ主催）

- 西日本新聞社杯（リジョナル、3 月）、JCBL 主催のナショナル及びリジョナル競技会の九州予選、セクショナル、ローカル、IMP リーグ、ウィークリーゲームを開催した。

例年 7 月に開催している山笠リジョナルの福岡市長杯とテレビ西日本杯は、APBF 福岡大会のサイドゲームとして開催した（公益目的事業 3.1）。

- 福岡ブリッジプラザ主催競技会の結果は以下のとおり。

(1) ウィークリーゲーム

月曜午後： 延べ参加者数 399 名（計画 700 名）
 火曜午後： 延べ参加者数 94 名（計画 700 名）
 水曜午後： 延べ参加者数 668 名（計画 700 名）
 金曜午後： 延べ参加者数 184 名（計画 700 名）

(2) ローカル

土日ローカル： 月 2 回 平均 6 卓 延べ 587 名（計画 760 名）
 火曜ローカル： 月 1 回 平均 4.5 卓 延べ 227 名（計画 240 名）
 金曜ローカル： 月 1 回 平均 7 卓 延べ 342 名（計画 300 名）

(3) IMP リーグ

新人リーグ（火曜）： 5+4=9 卓（計画 4 チーム×2）
 新人リーグ（水曜）： 5+6=11 卓（計画 5 チーム×2）
 火曜リーグ： 0+5=5 卓（計画無し）
 金曜リーグ： 8+(4+4)=16 卓（計画 6 チーム×2）
 土日リーグ： 4+4=8 卓（計画 5 チーム×2）

(4) セクショナル

オープンチャンス： 6回 延べ 61 卓（計画 6 回）
 ハンディキャップペア： 1回 4 卓（計画 2 回）
 新人セクショナル： 1回 5 卓（計画 1 回）
 その他： 13回 延べ 95.5 卓（計画 11 回）

(5) ナショナル(リジョナル)予選

全日本地域対抗選手権： A~D 各 1、B のみ 2 卓（計画 2×2 卓）
 外務大臣杯： 5 卓（計画 5 卓）
 高松宮妃記念杯： 3 卓（計画 4 卓）
 柳谷杯： 5 卓（計画 5 卓）
 玉川高島屋 S・C 杯： 4 卓（計画 3 卓）
 全日本女子ペア選手権： 2.5 卓（計画 5 卓）

(6) APBF サイドゲーム（計画総計 45 卓）

STF ペア戦(8 月 27 日)： 5.5 卓
 STF ペア戦(8 月 28 日)： 12 卓
 オープンチャンスチーム戦(8 月 29 日)： 14 卓
 新人ペア戦(9 月 1 日)： 10 卓
 新人チーム戦(9 月 2 日)： 8 卓

(7) 九州リジョナル（3 月）

リジョナル 1&2： 17.5&16 卓（計画 20 卓） 西日本新聞社杯： 18.5 卓（計画 20 卓）
 新人ローカル 1&2： 6&3 卓（計画 10 卓） 新人セクショナル： 3.5 卓（計画 10 卓）

2. 競技会運営環境の整備（公益目的事業 1.2）

本年度は以下の事業を実施した。

① 競技会運営管理システム

- 競技会集計ソフト（JTOS）の保守・管理を行い、主にスコア入力システム（ブリッジメイト）使用時の機能を向上させ、ブリッジメイトを使用するセンター/クラブに対しては随時バージョンアップしたβ版を提供した。
- WBF 新 VP スケールに対応した JTOS ver3.1 を平成 25 年 3 月にリリースし、ホームページでのダウンロードまたは CD 郵送により一般クラブ/会員に配布した。
- ブリッジメイトの使用方法を改善し、一般クラブでの使用を支援した。今年度は、福岡ブリッジプラザ、東戸塚ブリッジクラブ、静岡ブリッジクラブが新規に導入した。

② 競技会運営環境の整備と維持

- 主要競技会の予想参加者数に応じて、複数の会場（主に首都圏ブリッジセンター）に会場提供を依頼し参加者数に対して余裕のある会場を準備した。

③ 競技委員会

- 平成 24 年 5 月 26 日開催の理事会において任期満了に伴う委員長及び委員の改選が行われ、寺本直志理事を委員長に指名するとともに、再任 10 名及び新任 1 名の委員を選任した。

委員： 齋藤千鶴乃、山後秀幸、佐々部君敏、田中陵華、西田奈津子、西田博、
古田一雄、正村祐一、山菅昭夫、林伸之、仲村篤志

- 競技委員会規則を改正し、平成 24 年 10 月 26 日開催の理事会で承認された。
- 定例委員会（隔月）を、6 回開催した。主な議事・決議事項は次のとおり。
 - シードポイント制度を見直し、平成 24 年 12 月より新制度に移行した。
 - WBF 新 VP スケールは、平成 25 年 4 月以降に開催する連盟主催競技会で使用することにした。

④ ルール委員会

- 平成 24 年 5 月 26 日開催の理事会において任期満了に伴う委員長及び委員の改選が行われ、宮内宏氏を委員長に指名するとともに、5 名の委員を選任した。
- 定例委員会を 2 回開催した。

3. ディレクターの養成（公益目的事業 1.3）

本年度は以下の事業を実施した。

① ディレクター講習会

平成 25 年 3 月 3 日（日）に四谷ブリッジセンターでクラブディレクター養成講習会を開催し 13 名が受講した。同時にクラブディレクターを対象とする講習会を開催し、3 名が受講した。

② ナショナルディレクター養成プログラム

隔年（偶数年）開催のため、本年度は試験・実地研修共に開催しなかった。

③ ディレクター承認

競技委員会においてクラブディレクター 16 名、セクショナルディレクター 5 名を承認した。

4. 競技会事業管理（公益目的事業 1.9）

- 競技会事業部の目的を達成するために必要な人件費、交通費、消耗品費、印刷製本費、賃借料などの経費を支出した。

- 福岡ブリッジプラザの活動では、今年度は、APBF 福岡大会が開催され、九州・福岡へのブリッジ普及の節目の年となった。福岡ブリッジプラザでは JCBL からの独立に向けて準備作業を推進した。
受付業務や日計処理の効率化を行い、結果としてサロン指導等を充実させた。ただし、サロンの収入増につなげるにはもう少し時間を要するであろう。
利用者の利便性向上のためウェブサイトを立ち上げ、ハンドの閲覧サービス等を開始した。利用者の評判は悪くないが、体裁を整えるのはこれからの課題となる。
業務の標準化のため、ディーリングマシンのマニュアル等を作成した。

II. 普及事業（公益目的事業 2）

本年度は、高橋陽子前普及事業部長の後任に清水映樹新部長を迎え、新体制のもと、中長期的観点から公益社団法人にふさわしい普及広報戦略を検討するとともに、APBF 福岡大会を活用して効果的な普及広報活動を展開することに注力した。

本年度より、九州支部及び福岡ブリッジプラザの該当事業を組み入れて統合した。

新規事業

- 青山学院大学ブリッジ講座支援（公益事業 2.3）
- 入門レベル教材作成（公益事業 2.4）
- 認知度調査（公益事業 2.4；本年度単発）

1. 体験イベントの開催（公益目的事業 2.1）

公益社団法人移行に伴う事業区分の再編により、ブリッジをよく知らない人々を対象に、気軽に参加でき、ブリッジに対する興味・関心を高めてもらうための各種体験イベント関連事業を「体験イベントの開催」としてまとめ、以下のように分類した。

本年度は以下の事業を実施した。

① 文化・教育関連イベント出展（旧ユース部会担当「青少年対象イベントへの参加」）

事業名	主催団体	実施場所	実施時期	日数	受益対象者の範囲	参加人数 (延べ)
霞が関子ども見学デー	文部科学省	文部科学省	8月8日9日	2日	小中学生及びその保護者など	231名
第7回関西ジュニア・ペア碁大会	日本ペア碁協会	京セラドーム	8月26日	1日	小中学生及びその保護者など	56名
夏休みジュニア&プロふれあい囲碁まつり	日本棋院中部総本部	日本棋院中部総本部	8月19日	1日	小学生～高校生及びその保護者など	100名
ゲームマーケット（東京）	ゲームマーケット事務局	東京都立産業貿易センター	5月13日	1日	一般	91名
ゲームマーケット（大阪）	ゲームマーケット事務局	大阪マーチャンダイズ・マート	3月10日	1日	一般	150名

② 一般向け体験イベント

- APBF コングレス福岡大会普及イベント

APBF コングレス福岡大会という注目度の高い機会を最大限に活用して、一般の人々にブリッジに対する興味・関心を高めてもらうための各種普及イベントを開催した。

会 期： 平成 24 年 8 月 25 日（土）～30 日（木）

会 場： ヒルトン福岡シーホーク

計画概要： 1. マインドスポーツ体験教室 8月25日 午後 8月26日 終日
2. ミニブリッジ大会河部杯 8月25日 午後
3. 初心者大会ビギナーズ杯 8月26日 午前・午後
4. 普及コーナー 8月27日～8月30日

受益対象者の範囲・参加人数： 一般市民 420 名（延べ）

- NEC ブリッジフェスティバル体験イベント

本年度分は開期が平成 25 年 4 月に延期となったため、平成 25 年度の事業報告で記述する。

- ブリッジを愉しむ会

日頃ブリッジをする機会の少ないプレイヤーを中心に、多くの人がブリッジを通じて気軽に交流できる場を提供した。1月に予定していた開催は中止したため年3回開催になった。

開催日： 4月11日、7月11日、10月10日の年3回開催

会場： 四谷ブリッジセンター

受益対象者の範囲・参加人数： 一般プレイヤー・23名、15名、15名

- 横浜ビギナーズ杯

開催日： 平成24年4月25日（水）（午前・午後）

会場： 横浜ブリッジセンター

参加者数： △5MP 午前40名 午後28名 合計68名

△20MP 午前27名 午後39名 合計66名

③ ユース向け体験イベント

- ユースキャンプ

全国の学生を対象とする JCBL 主催のブリッジキャンプを開催し、学生同士の交流と技術向上を支援した。大学ブリッジ講座の受講生・修了生が次のステップを目指す場となることも期待している。JCBL 及び各大学のブリッジクラブのウェブサイトなどを通じて告知・PR 活動を行った。

開催日： 平成24年9月10日～9月14日

会場： 相模原市ホテルウイングインターナショナル

受益対象者の範囲・参加人数： 全国の大学生39名

④ ジュニア向け体験イベント（ジュニアくらぶイベント）

- ジュニアくらぶ体験イベント

ジュニア層及びその保護者に対するブリッジの認知度・イメージの向上とジュニアプレイヤーの数的・地域的基盤の拡大を図り、将来のブリッジ界を担うジュニアプレイヤーを育成するため、ジュニア層及びその保護者がミニブリッジを体験、練習できる機会を継続的に提供した。

年間開催実績

事業名	実施場所別回数		実施時期	参加人数 (合計)
	四谷 BC	横浜 BC		
体験／入門／練習会				
体験教室	4	6	通年	18名
ミニブリッジ短期コース	(2)	0	通年	不成立
ジュニアサロン	0	1	4月	3名
橋之介プレ道場／ミニ道場	6	10	通年	77名
大会				
橋之介ミニ道場スペシャル大会	1	1	12月3月	20名
第5回横浜ミニベイブリッジフェスティバル杯	-	(1)	5月	不成立
第4回ジュニア・ミニブリッジチーム選手権	1	-	7月	16名
第3回マクブリッジ杯	(1)	-	7月	不成立

- ジュニアくらぶ運営

本年度のジュニアくらぶへの新規入会者数は20名（平成23年度11名）、年度末時点での会員数は249名（同237名）、各種イベントへの延べ参加者数は139名（同120名 ※ジュニアのみ）であった。

1年あまりにわたる告知期間を経てスタンプラリー制度は本年度末をもって終了した。

ジュニア向け広報活動として『ジュニアくらぶ通信』の編集・発行を行った。年4回発行

の季刊誌だが、2012 年春号の発行時期が 4 月にずれ込んだため、本年度は前年度分と合わせ 4 月、6 月、9 月、12 月、3 月に計 5 回発行した。このほか、会報ジュニアコーナー・ウェブサイトのジュニア向けページの記事の編集・作成・掲出、チラシ・ポスター制作・配付、登録者向けのイベント情報のメール配信などの広報活動を行った。

⑤ 九州地区

• 九州支部主催体験イベント

企業・団体への働きかけを強化し、九州電力、昭電社、介護付有料老人ホームアンペレーナ百道、ITC（インターナショナル・トレーニング・コミュニケーション International Training Communication）等で体験教室を開催した。昭電社ではブリッジクラブが発足した。福岡ブリッジプラザでの土曜サロン、及び九州リジョナル・西日本新聞社杯の併催イベントとして体験教室を今年度も開催した。

ミニブリッジ体験教室等

イベント名	開催日	参加者数
ITC 体験教室	4 月 28 日	15 名
堤公民館ボランティア事業	7 月 31 日	16 名
昭電社体験教室	8 月 6 日, 8 月 20 日	4 名
九州電力電子通信部体験教室	8 月 8 日, 8 月 22 日	4 名
介護付有料老人ホームアンペレーナ百道体験教室	8 月 9 日	8 名
長尾中学校区文化交流会	9 月 15 日	120 名
西日本新聞社杯体験教室	3 月 3 日	6 名

ミニブリッジサロン 毎月 2 回開催 年間述べ 180 名参加

• 福岡ブリッジプラザ

ミニブリッジ体験教室 8 月・9 月 参加者数 14 名（計画 20 名）

サロン 月～金曜日開催 年間延べ 1,140 名（計画 600 名）

2. 講習会等の開催（公益目的事業 2.2）

公益社団法人移行に伴う事業区分の変更により、ブリッジに親しみ、理解を深め、技量を向上させるための講習会等を開催する事業を「講習会等の開催」としてまとめた。本年度は以下の事業を実施した。

① ミニブリッジ指導法講習会

- 体験教室や入門講習会の講師を初めて務めるプレイヤーのための講習会を依頼ベースで開催する計画だったが、本年度中の依頼はなかった。

② ユース向け講習会

- 意欲あるユースプレイヤーの育成を目的とする「ユース育成プロジェクト」の一環として、強化プログラムによる技術向上支援を行った（「ユース育成プロジェクト」の国際大会派遣事業は公益目的事業 3.2）。

A) 育成プロジェクト（公益目的事業 2.2）

平成 24 年度の代表選手及び平成 25 年度代表候補登録者を対象に、練習会、講習会、国内競技会参加（反省会形式の講習会を含む）、代表選考試合等で構成される育成プロジェクトを実施した。参加者には、プロジェクト指定の 5 競技会（柳谷杯、横浜 INV、高松宮記念杯、朝日新聞社杯、木村六郎杯）と特別講習会への参加費を助成した。遠方からの参加者には、交通費・宿泊費の助成も行うとともに、各講習会には講師を派遣した。

ユース育成プロジェクトの今年度の登録者数は 48 名（前年比 4 名増）だった。

B) 国際大会への派遣（公益目的事業 3.2）

本年度は以下の国際大会への代表選手派遣または参加支援を実施した。

- APBF コングレス福岡大会（参加支援）

会 期： 8 月 25 日～9 月 2 日

開催地： ヒルトン福岡シーホーク

内 容： 26 歳未満（U26）のユースチーム 14 名の参加料及び交通費・宿泊費を助成した。

- ワールドユースチーム選手権（代表チーム派遣）

会 期： 7 月 25 日～8 月 4 日

開催地： 太倉市（中国）

内 容： 26 歳未満（U26）のジュニアチーム 6 名、21 歳未満（U21）のヤングスターチーム 6 名、計 12 名の選手、NPC1 名の派遣に伴う航空運賃、宿泊費、参加料、海外保険料、ユニフォーム代などを助成した。

- その他（参加支援）

本年度の実績はなかった。

③ ジュニア向け講習会

- 前年度に新設したジュニアくらぶ集中講座を四谷ブリッジセンター（開催数 1 回、不成立 1 回、参加者数 3 名）及び横浜ブリッジセンター（開催数 3 回、述べ参加者数 12 名）で開催した。

④ 九州地区（福岡ブリッジプラザ主催講習会）

- 福岡ブリッジプラザ主催講習会の結果は以下のとおり。

種類	内容	受講者数
入門講習会	前期 4～9 月、後期 10～3 月	前期 6 名、後期 13 名
レベルアップ講習会	入門 2（6 ヶ月経過）	年間延べ 244 名
	初級 1（12 ヶ月経過）	年間延べ 277 名
	中級 2（18 ヶ月経過）	年間延べ 348 名
	中級（上級を目指す）	年間延べ 313 名

3. 体験教室・講習会等の実施支援（公益目的事業 2.3）

① 体験教室・講習会等の支援

体験教室・入門講習会を開催して愛好者を増やしたいという会員・会友の自己負担を軽減する支援を継続し、開催場所・回数増を図った。また、カルチャースクール講座では通常支払われないアシスタント料を助成することにより、良質なブリッジ講座の開催を支援した。

- ブリッジセンター、クラブ及び個人が開催する体験教室の助成

14 都道府県の教育現場や文化祭、地域イベント、国際交流イベント、老人福祉センター、同窓会、公民館、ブリッジクラブ、海外クラブ、クルーズで、会員・会友が開催した体験教室の講師／アシスタント料、会場費、交通費を助成した。

地域別実施状況内訳

地域	参加者数	件数	助成額
北海道	47 名	4 件	¥60,040
宮城	10 名	1 件	¥44,000
栃木	52 名	2 件	¥121,100
茨城	17 名	1 件	¥12,000
東京	147 名	14 件	¥245,696
埼玉	130 名	1 件	¥37,900
千葉	49 名	6 件	¥72,120
神奈川	167 名	7 件	¥213,850
岐阜	16 名	1 件	¥6,000
山口	5 名	1 件	¥11,900
福岡	4 名	1 件	¥7,320
長崎	34 名	1 件	¥29,760
佐賀	20 名	1 件	¥18,000
沖縄	20 名	1 件	¥38,000
海外	157 名	2 件	¥49,000
クルーズ	63 名	2 件	¥18,000
合計	938 名	46 件	¥984,686

- クラブ及び個人が開催する入門教室の助成

6 都道府県及びジャカルタ、シンガポールなどで会員・会友が開催した入門講習会の講師料、会場費、交通費、及びクルーズのアシスタント料を助成した。

地域別実施状況内訳

地域	参加者数	件数	助成額
北海道	67 名	7 件	¥409,940
宮城	23 名	2 件	¥110,520
栃木	22 名	2 件	¥156,000
群馬	6 名	1 件	¥20,500
東京	27 名	4 件	¥97,796
千葉	5 名	1 件	¥52,620
神奈川	32 名	2 件	¥180,230
愛知	11 名	2 件	¥52,630
山口	8 名	1 件	¥44,200
海外	59 名	6 件	¥232,553
クルーズ	84 名	3 件	¥420,000
合計	344 名	31 件	¥1,776,989

- カルチャー講座助成

6 都道府県で開講されているカルチャースクール講座 29 件について、アシスタント料、講師・アシスタント交通費の助成を行った。

地域別実施状況内訳（アシスタント交通費助成を含む）

地域	参加者数	件数	助成額
東京	263 名	19 件	¥529,960
千葉	26 名	5 件	¥158,200
埼玉	14 名	2 件	¥74,000
神奈川	15 名	2 件	¥43,140
熊本	12 名	1 件	¥21,440
合計	330 名	29 件	¥826,740

- 講習会・カルチャースクール特別助成

ブリッジ普及にあたり特に重要であると普及事業部が判断する地域の講習会及びカルチャースクール講師料・交通費を助成した。

対象講習会・カルチャーセンター：仙台 BC、ヨークカルチャーセンター長野、暮らしの学校（愛知県岡崎市）

② 地方活性化のための支援

- 地方クラブ支援活動

全国のブリッジクラブによる普及活動を奨励し、イベント企画・体験教室スタッフ派遣・賞品提供など必要な支援を行った。

・長崎チェス&ブリッジクラブ主催「第 5 回長崎居留地まつりブリッジ大会新人戦」に優勝グラス寄贈（9 月）

- 初心者大会参加助成

JCBL が主催する競技会に、全国の初級者 10 ペアを 1 泊 2 日で招待した。

- 地方クラブの普及担当者研修

本年度の実績はなかった。

① 教育現場におけるブリッジ講座支援

- 東京大学ブリッジ講座（7 年目）

講座概要： 前期・後期 各 14 回、2 単位

実施場所： 東京大学駒場キャンパス

講師： ロバート・ゲラー

支援内容： 準講師格アシスタント 2 名の派遣、四谷ブリッジセンターでの最終授業（1 日）開催、教材コピー、発送など事務業務、受講学生への JCBL 会報配付支援を行った。

結果： 受講登録者 52 名 単位取得者 27 名

- 早稲田大学ブリッジ講座（4 年目）

講座概要： 前期・後期 各 15 回

実施場所： 早稲田大学

講師： 清水映樹

支援内容： アシスタント派遣 4 名、交通費、会場費、用具その他授業経費支援を行った。

結果： 受講登録者 60 名 単位取得者 41 名

- 福岡大学ブリッジ講座（2 年目）

講座概要： 前期・後期 各 15 回

実施場所： 福岡大学

講師： 勝部雅子

支援内容： 講師及びアシスタント 3 名の派遣、交通費、その他授業経費支援を行った。

結果： 受講登録者 32 名 単位取得者 23 名

※ このほか、福岡大学では、5 月 15 日午後開催された経済学部の山崎好裕教授のオムニバス講座に対する支援も行った（出席者：約 300 名）。

- 青山学院大学ブリッジ講座（新規）

講座概要： 前期・後期 各 15 回

実施場所： 青山学院大学

講師： 島村京子

支援内容： 講師及びアシスタント 6 名の派遣、交通費、教材コピー、発送、用具その他授業経費支援を行った。

結果： 受講登録者 100 名 単位取得者 78 名

② 学校・学生支援

- 学校クラブ活動支援

要請に基づき、大学・高校・中学ブリッジ部の立ち上げや新入部員獲得活動に対する支援やクラブ活動に必要な教材・用具等の提供を行った。

対象クラブ：3 クラブ

- 学生リーグ支援

学生リーグ主催の学生選手権に今回初めて参加した学生に宿泊費・交通費の一部を助成した。

夏季学生選手権

開催日： 平成24年9月10日～9月14日

会 場： 相模原市ホテルウイングインターナショナル

受益対象者の範囲・参加人数： 全国の大学生10チーム42名
春季学生選手権

開催日： 平成25年3月17日～3月22日

会場： 東京都代々木オリンピックセンター

受益対象者の範囲・参加人数： 全国の大学生12チーム50名

③ 九州地区（九州支部による九州地区での支援活動）

• カルチャースクール講座支援

西日本新聞TNC文化サークル： 講師料助成

熊日生涯学習プラザ講座： アシスタント2名派遣、講師及びアシスタントの交通費助成

4. 広報（公益目的事業 2.4）

本年度は以下の事業を実施した。

① 広報宣伝活動

- 本年度は、新体制のもと、中長期的観点から公益社団法人にふさわしい広報戦略を検討し、新たに策定した中期計画に組み込んだ。APBF 福岡大会後に認知度調査を実施し、前回実施分（平成 22 年度）と結果を比較して検討材料とした。また、APBF 福岡大会開催に合わせ、福岡市内を中心にタウン誌掲載、ポスター掲示、チラシ配付等の広告宣伝活動を行った。
- 平成 24 年度に実施した媒体への広告掲出は以下のとおり。

	掲出媒体	回数（合計）
イメージ広告	はれ予報 5月号、6月号、9月号	3回
	おとなの OFF 5月号、7月号、8月号、9月号	4回
	パズル誌 10月号、12月号、3月号	3回
	ないすらいふガイド 2012年版	1回
	SKYMARK 機内誌	5回
	7月号、9月号、11月号、1月号、3月号	
	アメージングテーブルゲーム Vol.3	1回
イベント告知広告	アヴァンティ 9月号	1回
	リビング横浜東・横浜南・田園都市	1回

- その他の広報宣伝活動

プレスリリース配信：3本

ブリッジセンター及びブリッジクラブ向け集客広報支援：3件、総額 15万円

ブリッジ図書寄贈プロジェクト（東北地方）：7箇所、9冊

② 「2012APBF 福岡大会」新聞特集（新規・単発）

- APBF 福岡大会開催に合わせ、マインドスポーツとしてのブリッジの PR、認知度向上、併催普及イベントへの集客につなげるため、地元紙に特集記事を掲載した。JCBL、福岡委員会、地元広告代理店で分担して集稿した。

③ 出版物の刊行：入門レベル教材の作成（新規・単発）

- 全国の普及協力者から入門レベル教材の改訂・刷新を求める声が多数寄せられていることから、講師・初心者が使いやすく、時代のニーズに合致する内容の教材を作成・出版する予定だったが、本年度は見直し・検討段階にとどまった。

④ ウェブサイト

- 昨年度に導入した CMS システムの特徴を生かしたサイト戦略・活用方法を検討した。
- 「普及通信」ウェブ版を定期的に更新した。非インターネットユーザー向けには印刷版を作成して郵送した。

⑤ 広報ツールの作成・配布

- 普及活動及び会員サービスとして活用可能な廉価なグッズの製作・購入・配付を行った。主な制作物は以下のとおり。
 - オリジナル年賀状の製作と印刷（500枚）
 - 「福岡ブリッジ祭り」チラシ印刷（7,700部）
 - 「福岡ブリッジ祭り」ポスター印刷（500部）
 - NECBF 一般イベント「Let's Play ブリッジ！」チラシ印刷（2,000部）
- 公益社団法人化に伴い、総合パンフレットの改訂と事務局入居ビルの看板の改修を行った。

5. 普及事業管理（公益目的事業 2.9）

- 普及事業部の目的を達成するために必要な人件費、交通費、消耗品費、印刷製本費、賃借料などの経費を支出した。

普及ネットプロジェクト

- 普及事業部とブリッジ・インストラクターを結ぶネットワークとして運営している「普及ネット」を活用して、新たな普及事業運営体制を検討した。
- ブリッジ・インストラクターの登録管理と登録証の発行を行った。

III. 国際交流事業（公益目的事業 3）

公益社団法人化に伴う事業区分の改編により、前年度まで普及事業に分類されていたユースを対象とする国際競技会への参加支援事業を本年度より国際事業に組み込むとともに、国内競技会である NEC ブリッジフェスティバルの開催は競技会事業に区分を変更した。

本年度特記事項：

2012APBF コングレス福岡大会の開催を最大限活用し、国内外のブリッジ関係団体、ブリッジプレイヤー、並びにマインドスポーツ関連団体との交流を深め、ブリッジの普及・発展への寄与に注力した（詳細は別添報告書を参照）。

1. 国際競技会の主催（公益目的事業 3.1）

① 2012APBF コングレス福岡大会

平成 24 年 8 月 25 日から 9 月 2 日にかけて、第 7 回 APBF コングレス福岡大会をヒルトン福岡シーホークで開催した。本大会の直前に第 2 回ワールドマインドスポーツゲームズが開催されたという不利な条件にもかかわらず、本戦チーム戦には、国内外から、オープン 30 チーム、ウィメン 11 チーム、シニア及びユースが各 8 チーム、合計 57 チームと多数のチームの参加があった。

② Yeh Bros 杯開催協力

チャイニーズ・タイペイの葉氏が主催する国際試合 Yeh Bros 杯の日本開催に協力することを正式に決定した。開催時期は平成 25 年 4 月とし、NEC ブリッジフェスティバルと連続する形で開催することにより、近年減少傾向にある双方の大会の参加者数を増やすなどのシナジー効果や費用対効果の向上を目指す。本年度は主催者側と協力して具体的な計画を検討、準備作業を進めた。

2. 国際競技会への代表派遣（公益目的事業 3.2）

① 代表派遣事業運営体制

- 平成 24 年 5 月 26 日開催の理事会において、任期満了に伴う代表選抜委員会の委員長及び委員の改選が行われ、久富浩理事を委員長に指名するとともに、再任 2 名の委員及び相談役 1 名を選任した。

委員： 兼岩芳樹、齋藤陽子

相談役： 水谷建

- 代表選抜委員会規則、代表助成規則、代表選抜規則、代表選手規則を改正し、平成 24 年 7 月 27 日開催の理事会で承認された。改定前規則は、平成 24 年 8 月開催の第 2 回ワールドマインドスポーツゲームズまで適用。

② 日本代表選抜

- 平成 25 年度 APBF 選手権の日本代表選抜試合を開催し、オープン、ウィメン各 1 チームを選抜した。参加者には交通費と宿泊費を助成した。

開催日： 予選 平成 24 年 11 月 10 日・11 日、決勝 12 月 8 日・9 日

参加チーム数： オープン 2 チーム、ウィメン 3 チーム

- 代表チームの国内競技会参加料及び練習会の費用を助成した。

③ 国際競技会派遣

- APBF 選手権（2012APBF コングレス福岡大会）

今年度はホスト国として JCBL が大会運営にあたった。代表者会議には、連盟役員、代表委員、及び事務局長が出席した。

オープン参加のコンgresのため、代表チームの派遣は実施しなかった。

- 世界選手権
第 2 回ワールドマインドスポーツゲームズにオープン、ウィメン、シニアチームを派遣した。
- 日本代表のユニフォームを作成、代表選手に支給した。

④ 国際競技会派遣（ユース）

本年度は以下の競技会への参加を支援した。

- APBF 選手権（グレード I）：APBF コングレス福岡大会 3 チームが参加
- ワールドユースチーム選手権（中国太倉市 7/25~8/4）（グレード I） ジュニア(U26)及びヤングスター(U21)に各 1 チームを派遣

3. 国際的競技団体との交流（公益目的事業 3.3）

コントラクトブリッジを通じた国際交流を促進するため、本年度は以下の事業を実施した。

① 世界同時大会への参加

- 平成 24 年 6 月 1~2 日に開催された世界同時大会開催に参加協力
6 月 1 日（金）：13 クラブ、478 名参加（全世界：45 ヶ国、318 クラブ、10,454 名参加）
6 月 2 日（土）：12 クラブ、310 名参加（全世界：36 ヶ国、265 クラブ、10,656 名参加）

② APBF 同時大会への参加

- 平成 24 年 11 月~平成 25 年 4 月まで開催された APBF 同時大会開催に参加協力
11 月：16 クラブ、544 名参加
12 月：16 クラブ、472 名参加
1 月：11 クラブ、306 名参加
2 月：17 クラブ、548 名参加
3 月：15 クラブ、538 名参加
(4 月：17 クラブ、550 名参加)

③ 海外競技会に参加する会員の支援と海外への情報提供と収集

- ACBL との提携の継続・強化：ACBL 競技会の開催状況の提供
- APBF 加盟国競技会の開催情報の提供
- WBF 加盟国の競技会開催情報の提供

④ JCBL ウェブサイトの活用

連盟サイトを通して海外に情報を提供するとともに、ブリッジ関連サイトから情報を収集し、会員・会友に提供した。

⑤ 国際ブリッジ組織協力・支援活動

第 14 回世界ユースチーム選手権で初めて「ガールズチーム」部門が設置されたことに伴い、APBF 及びチャイニーズ・タイペイブリッジ協会（CCTBA）への協力の一環として、同部門へのチャイニーズ・タイペイガールズチームの遠征費助成を行った。

4. 国際交流事業管理（公益目的事業 3.9）

- 国際交流事業部の目的を達成するために必要な人件費、交通費、消耗品費、印刷製本費、賃借料などの経費を支出した。

IV. 収益事業等

1. 公認（収益事業等 1）

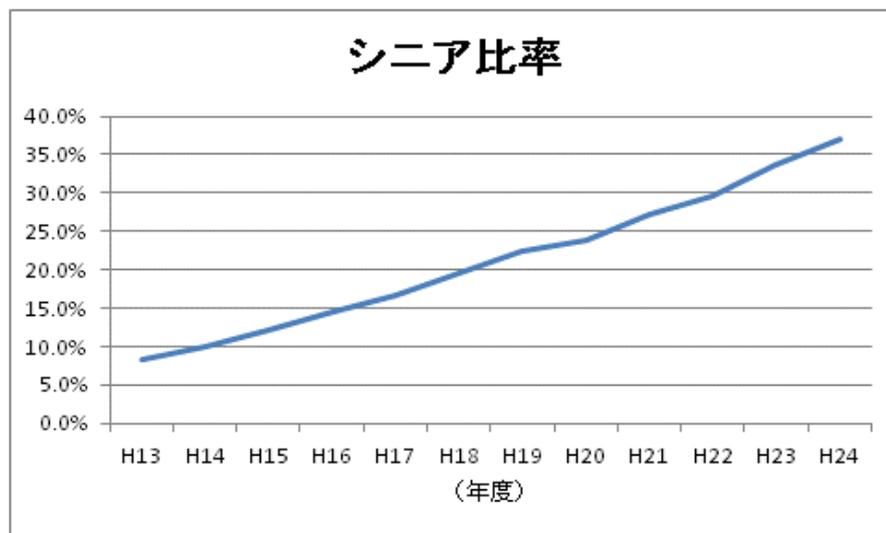
収益事業等 1.1 競技会の公認

① クラブ・センター主催競技会の公認

- 当連盟が公認するブリッジセンター及びブリッジクラブが主催する競技会（ナショナル、リジョナル、セクショナル、ローカル、CCG、IMP リーグ、ウィークリーゲーム）を公認した。

レイティング	競技会数	卓数
ナショナル	23	188.00
リジョナル	38	1236.00
セクショナル	2168	33874.50
ローカル	380	2551.25
CCG	1148	10100.75
IMP	480	4700.00
合計	4237	52650.50

- シニア及びジュニア・ユースプレイヤーに対する競技会参加料割引を実施した。内訳はシニア向けが 90%、ジュニア・ユース向けが 10%と、大部分をシニアが占めている。シニア会員・会友数及びシニアプレイヤーの競技会への参加がともに増加傾向にあることを反映して、近年この項目の支出が急増しており、今年度の割引対象額は 2,550 万円にのぼり、前年度に比べ約 300 万円の負担増となった。
ここ数年、本割引制度が JCBL の財務基盤にマイナスの影響を及ぼす水準に達してきているとの認識から、本年度はこの制度の抜本的見直しに着手し、シニア割引を廃止する方向で検討している。



(注) JCBL 会員及び会友に占めるシニア会員・会友の割合。

② マスターポイントの認定・管理

- マスターポイントの集計・発行及びマスター位の認定を行った。

今年度認定したマスター位の人数は以下の通り

ダイヤモンドライフマスター： 2名

ゴールドライフマスター：	5 名
シルバーライフマスター：	34 名
シニアライフマスター：	117 名
ライフマスター：	143 名
シニアマスター：	191 名
ナショナルマスター：	180 名
マスター：	166 名
ジュニアマスター：	232 名

収益事業等 1.2 ブリッジクラブの公認と育成

① ブリッジクラブの公認と育成

- 新たに 2 つのブリッジクラブを公認した。
- 浜松リジョナルにあわせて地方クラブ会議を開催し、地方クラブの意見やニーズの把握に努めた。また、会議に出席する地方クラブ代表に対する参加費用の支援を行った。
- 「常設会場運営のためのサービス・ガイドライン」の運用、「ゲーム環境に係わるサービス向上のための意見書」対応、「緊急連絡システム」の運営、AED 設置支援を行った。本年度は、バリアフリー工事助成制度を新設し、身体の不自由な方にもブリッジを楽しんでいただく機会を増やすことを目的に、バリアフリー工事を希望する常設会場運営組織に対して工事費用の一部を助成することにした。

② 競技会開催支援

- 地方リジョナル 4 競技会にディレクター派遣費用の支援を行った。

2. 商品販売（収益事業等 2）

コントラクトブリッジに関する書籍、競技用具等の仕入れと販売を行った。

APBF 福岡大会を記念して関連グッズを企画制作して、販売した。

V. 管理部門

1. 会員・会友

① 入退会の状況

会員／会友数(平成 25 年 3 月 31 日現在)

会員資格	H25/3 月	H24/3 月	増減
正会員	94	97	△ 3
シニア正会員	77	78	△ 1
終身会員	90	90	0
特別会員	14	14	0
名誉会員	4	4	0
小計	279	283	△ 4
一般会友	2,728	2,669	59
シニア会友	2,420	2,416	4
団体会友	580	594	△ 14
海外会友	77	85	△ 8
家族会友	310	318	△ 8
地方会友	795	763	32
ユース会友	88	77	11
ジュニア会友	84	86	△ 2
終身会友	69	68	1
小計	7,151	7,076	75
総計	7,430	7,359	71
クラブ	114	112	2

② 会員・会友向け刊行物の発行

- ・ 会員・会友向けの以下の刊行物を編集・発行した。

『JCBL BULLETIN』（会報） 隔月刊年 6 回奇数月 1 日に発行、部数：7,300 部（1～4 号）、
7,400 部（5～6 号）

『JCBL HANDBOOK』 毎年 5 月 1 日発行、部数：7,300 部

『九州支部会報（第 12 号）』 部数：8,000 部

③ JCBL ライブラリーの運営

- ・ 通常の新刊書に加え、欠落していた図書の追加購入を行った。
- ・ 事務局が保管している写真アルバム、ビデオ、その他の資料類、及びオートブリッジなどの器具類も連盟資料として保管管理を徹底すべきとの観点から、ライブラリー管理対象物に加えた。

④ キャンペーン

- ・ 会員・会友向けに以下のキャンペーンを実施した。

入会キャンペーン 入会者に QUO カードと粗品を進呈

実施期間：平成 24 年 1 月 1 日～4 月 30 日

ビギナーズ杯招待 初心者プレイヤーに対する競技会参加奨励策として実施。
従来の NEC ブリッジフェスティバルに加え、本年度は
2012APBF コングレス福岡大会サイドゲームとして開催された
ビギナーズ杯も招待対象に追加した。

2. 理事会・会員総会

(1) 理事会

開催日／出席等	議事事項	会議の結果
第 1 回理事会 4 月 27 日 出席 17 名 欠席 1 名 監事出席 2 名	1. 第 177 回社団法人日本コントラクトブリッジ連盟理事会議事録案の承認について 2. 平成 23 年度事業報告書及び決算報告書について 3. 平成 24 年度事業計画書及び予算案について 4. 定款及び諸規則改正について 5. 第 1 回会員総会の招集について 6. 業務担当理事・業務執行会議等の事前打合せについて 7. 各委員会及び事業部報告 8. 会員資格喪失について 9. 退任役員について	可決 会員総会への付議を決議 承認 会員総会への付議を決議 承認 了承 了承 承認 了承
第 2 回理事会 5 月 26 日 出席 13 名 欠席 0 名 監事出席 2 名	1. 第 1 回理事会議事録案の承認について 2. 理事会組織について 3. 役員の内選について 4. 競技委員任命について 5. 顧問弁護士契約について	可決 了承 選任 承認 承認
第 3 回理事会 7 月 27 日 出席 11 名 欠席 2 名 監事出席 3 名	1. 第 2 回理事会議事録案の承認について 2. 委員会委員の承認について 3. 諸規則改正について 4. 各委員会及び事業部報告	可決 承認 承認 了承
第 4 回理事会 9 月 28 日 出席 13 名 欠席 0 名 監事出席 3 名	1. 第 3 回理事会議事録案の承認について 2. ブリッジクラブの承認について 3. 各委員会及び事業部報告 4. 日本代表交通費助成について	可決 承認 了承 否決
第 5 回理事会 10 月 26 日 出席 10 名 欠席 3 名 監事出席 3 名	1. 第 4 回理事会議事録案の承認について 2. 会員の逝去について 3. ブリッジクラブの承認について 4. 各委員会及び事業部報告 5. 関澤美穂氏との業務委託契約について	可決 了承 承認 了承 承認
第 6 回理事会 12 月 21 日 出席 11 名 欠席 2 名 監事出席 2 名	1. 第 5 回理事会議事録案の承認について 2. 平成 25 年度予算案について 3. 各委員会及び事業部報告 4. 今後の理事会開催について	可決 了承 了承 了承
第 7 回理事会 1 月 25 日 出席 11 名 欠席 2 名 監事出席 2 名	1. 第 6 回理事会議事録案の承認について 2. 平成 25 年度予算案について 3. 各委員会及び事業部報告 4. 四谷ブリッジセンターとの交渉について	可決 了承 了承 了承
第 8 回理事会 3 月 22 日 出席 13 名	1. 第 7 回理事会議事録案の承認について 2. 平成 25 年度事業計画及び予算案について	可決 承認

欠席 0 名 監事出席 3 名	3. 各委員会及び事業部報告 4. チャリティ寄付先について 5. 会員の逝去について	了承 承認 了承
--------------------	---	----------------

(2) 総会

開催日／出席等	議事事項	会議の結果
第 1 回会員総会 5 月 26 日 総会構成員 281 名 出席 219 名 (内委任状 183 名)	1. 会員総会運営規則の承認について 2. 定款の変更について 3. 平成 23 年度の社団法人日本コントラクトブリッジ連盟事業報告、貸借対照表、正味財産増減計算書、財産目録並びに収支計算書について 4. 平成 24 年度の事業計画並びに予算案について 5. 理事改選について 6. 監事改選について 7. 関連規則の改正について 8. 理事による利益相反取引の承認について	承認 承認 承認 了承 選任 選任 承認 承認

3. 組織運営

① 事業運営体制

- 平成 24 年 5 月 26 日に開催された理事会において 7 名の業務執行理事を任命し、新たな業務執行理事体制がスタートした。6 月 15 日、鳩山勝郎会長代行を議長に第 1 回目の業務執行会議を開催し、基本的に業務運営は担当ごとに業務執行理事と事務局が執行すること、業務執行理事全員が参加する全体会議は定例とはせず、必要に応じて招集することを確認した。
- 新定款及び新組織規則をはじめとする諸規則の周知を図った。企画委員会規則、代表選抜関連諸規則など、いくつかの規則を改定した。

② 事務局

- 本年度は、高橋陽子普及事業部長と福崎洋子事務局員の退職に伴い、清水映樹普及事業部長と貴戸祥郎事務局員を 4 月 1 日付けで新規採用した。
- 職員研修の一環として、大政事務局長が公益法人会計セミナー（計 4 日間）に、貴戸事務局員が新入社員研修（2 日間）を受講した。
- 業務執行体制の変更に伴い、担当業務執行理事が事務局業務の状況を把握しやすいようにするため、年度初めより管理職以上の職員を対象に業務月報の作成と提出を義務付ける制度を導入した。

③ 九州地区

- 福岡ブリッジプラザは地元有志からの提案に基づき、平成 25 年 4 月 1 日をもって当連盟から独立し、設立当初の目標どおり、一般のブリッジクラブと同格の団体に新たに生まれ変わる事となった。営業が軌道に乗るまでの間、JCBL は必要に応じて、最大で 2 年間競技会公認料を免除するとともに、必要資金の一定期間の貸し付け及び連帯保証、普及活動を中心とした技術支援等を行う。
- 福岡ブリッジプラザの独立に伴い、九州支部並びに九州地区における普及活動の在り方の見直し作業に着手している。来年度も引き続き検討作業を進め、来年度中に新生プラザを軸とする地元愛好者主導の普及体制への移行を目指す。

④ 人事委員会

- 平成 24 年 5 月 26 日開催の理事会において任期満了に伴う委員長改選が行われ、鳩山勝郎会長代行を委員長に選任した。また、平成 24 年 7 月 27 日開催の理事会において 4 名の委員の就任を承認した。
- 定例委員会を平成 25 年 3 月 13 日に開催した。

4. 企画委員会

- 平成 24 年 5 月 26 日開催の理事会において任期満了に伴う委員長の改選が行われ、山田和彦理事を委員長に選任した。
- 平成 24 年 7 月 27 日開催の理事会において企画委員会規則改正案を承認した。また、改正後規則に基づき、任期満了に伴う委員の改選とアドバイザー 3 名の就任を承認した。

新委員： 山田和彦（委員長）、大政哲人（事務局長）

（委員長が指名する委員）清水映樹、寺本直志、西田奈津子、平田隆彦、古田一雄

アドバイザー：関澤美穂、成田秀則監事、宮内宏顧問弁護士

- 定例委員会を、平成 24 年 4 月 20 日（改選前最終回）、7 月 13 日（委員長・委員改選後第 1 回目）、9 月 14 日、10 月 15 日、12 月 7 日、平成 25 年 1 月 11 日、2 月 15 日、及び 3 月 8 日に、合計 8 回開催した。
- 7 月 13 日開催の改選後第 1 回目の委員会において今後の活動方針について検討を行い、以下の項目を課題として進めていくことを決定した。

優先課題／今年度の課題：

- 中期計画の策定（特に普及事業）
- 中間報告レビュー
- 来年度予算案審議・事業計画書作成
- 今年度事業報告書作成

その他の課題：

- 公認料の見直し
- 会友（会費）制度の簡素化
- 消費税対応
- センター・クラブ事業の見直し

公認料、会費の簡素化、消費税対応については、それぞれに個別に検討するのではなく、連盟の収支構造にかかわる課題として総合的に検討する。

- 平成 24 年 10 月 15 日開催の委員会において、企画委員会内に会費制度の簡素化を検討するために会費検討ワーキンググループ（WG）を設置し、来年度中に結論を出すことに決定した。同 WG は、平成 24 年 10 月 31 日、12 月 14 日、3 月 8 日、3 月 28 日に、合計 4 回会合を開催し、改定案の検討を行った。

平成 25 年 3 月末時点で同 WG は、有料の会友資格を一般とシニア／ユースの 2 種類に減らし、会費をそれぞれ 6000 円と 3000 円とすること、及び、改正に伴う会費収入の減少や別の枠組みで検討中の公認料引き下げの可能性を勘案し、健全な財務基盤を維持するためここ数年急増している参加料割引サービスの廃止することを企画委員会に提言している。

5. センター協議ワーキンググループ

- 平成 24 年 9 月 28 日の理事会において、ブリッジセンター及びブリッジクラブの在り方や JCBL との関係、公認料制度などについて JCBL とブリッジセンターの代表者が包括的に協議するためのセンター協議ワーキンググループ（WG）を理事会直属組織として設置することを承認した。連盟側の代表者は、山田企画委員長、中谷競技会担当業務執行理事、宮内顧問弁護士、大政事務局長の 4 名、ブリッジセンター側の代表者は四谷ブリッジセンター、横浜ブリッジセンター、高田馬場ブリッジセンターのマネージャー 3 名。
- 同 WG は、平成 24 年 11 月 28 日、平成 25 年 1 月 30 日及び 3 月 27 日の 3 回協議を行った。

2012APBF コングレス福岡大会 報告書

平成 25 年 3 月 31 日

公益社団法人日本コントラクトブリッジ連盟
2012APBF コングレス福岡大会実行委員会

目 次

I.	実施概要	1
1.	大会概要	1
2.	実施事業	1
(1)	APBF 関連	1
(2)	サイドゲーム	1
(3)	普及活動『福岡ブリッジ祭り』	1
(4)	歓迎交流プログラム	1
3.	日程	2
II.	各論	3
1.	本部事務局	3
(1)	準備作業	3
(2)	運営体制・スタッフ	3
(3)	APBF 代表者会議	4
(4)	宿泊予約・送迎・旅行関連	4
(5)	大会関連制作物	5
2.	競技会	6
(1)	APBF 選手権	6
(2)	サイドゲーム	7
3.	普及活動『福岡ブリッジ祭り』	9
(1)	体験教室	9
(2)	初心者大会	9
4.	ホスピタリティ	9
(1)	ホスピタリティデスク	9
(2)	その他	10
5.	歓迎交流プログラム	10
(1)	開会式	10
(2)	閉会式	10
(3)	有田ツアー（ホスピタリティチーム担当事業）	10
(4)	展示コーナー（九州支部・「APBF2012」福岡委員会担当事業）	11
(5)	はっぴーサマーナイト（「APBF2012」福岡委員会担当事業）	11
6.	広報活動	11
(1)	広報宣伝活動	11
(2)	取材・掲載メディア	12
III.	会計報告	13
IV.	総括	14

I. 実施概要

1. 大会概要

大会名：第7回アジアパシフィック・ブリッジコンgress福岡 2012

会期：平成24年8月25日（土）～9月2日（日） 9日間

会場：福岡県福岡市 ヒルトン福岡シーホーク（福岡市中央区地行浜 2-2-3）

主催：アジアパシフィック・ブリッジ連合（APBF：Asia Pacific Bridge Federation）

主管：公益社団法人日本コントラクトブリッジ連盟（JCBL：Japan Contract Bridge League）

協力：APBF2012福岡委員会

後援：文化庁、福岡県、福岡県教育委員会、福岡市、福岡市教育委員会、
公益財団法人福岡観光コンベンションビューロー、株式会社西日本新聞社

大会公用語：英語 * 期間中毎日、英語の日報（Daily Bulletin）を発行

参加資格：世界ブリッジ連合加盟123ヶ国・地域の国内ブリッジ組織に所属する者

協賛：介護付有料老人ホーム「アンペレーナ百道」、株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ、
株式会社九電工、株式会社正興電機製作所、株式会社テレビ西日本、
株式会社トンボ鉛筆、株式会社西日本シティ銀行、株式会社ふくや、
株式会社福岡銀行、九州旅客鉄道株式会社、九電旅行サービス、
九州電力株式会社、公益財団法人西日本国際財団、西部ガス株式会社、
昭和鉄工株式会社、西日本鉄道株式会社、任天堂株式会社、
ヒルトン福岡シーホーク、福岡地所株式会社、
福岡ソフトバンクホークスマーケティング株式会社、溝江建設株式会社

デザインディレクター：綿貫宏介

2. 実施事業

(1) APBF 関連

APBF コンgress本戦：APBF チーム選手権（4部門）、APBF オープンペア選手権
APBF 代表者会議

(2) サイドゲーム

リジョナルレイティング4試合、セクショナルレイティング5試合

(3) 普及活動『福岡ブリッジ祭り』

体験教室、講習会、河部杯（ミニブリッジ大会）、初心者向け競技会

(4) 歓迎交流プログラム

開会式、閉会式、有田ツアー、展示コーナー、はッピーサマーナイト、開会式・閉
会式パフォーマンス

3. 日程

8月24日(金)	APBF 代表者会議
8月25日(土)	開会式 APBF オープンペア選手権予選 河部杯(ミニブリッジ大会)
8月25日(土)～30日(木)	『福岡ブリッジ祭り』(体験教室)
8月26日(日)	APBF オープンペア決勝/コンソレーション
8月27日(月)～31日(金)	APBF コンgress予選ラウンド
8月29日(水)	有田ツアー はっぴーサマーナイト
8月30日(木)～31日(金)	福岡チームリジョナル
9月1日(土)	APBF コンgress準決勝 福岡市長杯予選
9月2日(日)	APBF コンgress決勝 福岡市長杯決勝 テレビ西日本杯 閉会式

II. 各論

1. 本部事務局

(1) 準備作業

平成 20 年 PABF（当時）コンgress・ゴールドコースト大会の代表者会議において、平成 24 年のコンgressを福岡で開催することが正式に承認された。

翌平成 21 年に実行委員会を設置し、宮国健次副会長（当時）が委員長を務めていたが、平成 22 年度の役員改選に伴い、山口知也副会長が委員長に就任するとともに、委員会を再編した。

平成 21 年 5 月に福岡地区の旅行代理店選定作業に入り、九電旅行サービスに会場の確保、ホテル予約などを依頼すること、また、同年 8 月に実行委員会委員が会場候補であるホテルニューオータニ博多とヒルトン福岡シーホークを視察し、ヒルトン福岡シーホークを会場とすることとし、理事会に実行委員会案を提出、承認された。

平成 23 年 8 月に大会公式ウェブサイトを立ち上げ、12 月から宿泊および参加申込の受付を開始した。

実行委員会開催数：平成 21 年度 6 回、平成 22 年度 3 回、平成 23 年度 3 回、
平成 24 年度 2 回、合計 14 回

(2) 運営体制・スタッフ

2012APBF コンgress福岡大会実行委員会

委員長： 山口知也

委員： 中谷忠義、島村京子、小山紘、桐山文子、関澤美穂、（以下事務局）
大政哲人、鈴木正人、仲村篤志、前田良徳

「APBF2012」福岡委員会

顧問： 高島宗一郎

委員長： 河部浩幸

副委員長： 葉真寺偉臣、緒方世喜子

委員： 永江静加、本郷譲、藤永憲一、木田富継、宮木博吉、坂田陽一、
徳重純夫、寺崎一雄、光富彰、松尾悟、中尾和毅、川原正孝、永渕英洋、
中川伸司、鎮西正直、新藤恒男、木下隆介、小山紘

監事： 勝部俊宏

渉外： 大石剛毅

スタッフ

チーフディレクター：Richard Grenside（オーストラリア）

ディレクター：中谷忠義、都梅伸子、山後秀幸

デイリーブリテン：Barry Rigal（米国）、Richard Colker（米国）

大会事務局：大政哲人、関澤美穂、鈴木正人、仲村篤志、野田祐子、貴戸祥郎

ホスピタリティ：桐山文子、中村美保

普及担当：清水映樹、坂本みどり、阪口みどり、加藤真智子、伝準子、坂井真知子、
桜井雅子

競技会： 田代有司、久富健史、村上草平、淡路愛沙也、外崎沙織、安井祥悟、
赤星翔、飯塚和希、井手翔

要員体制

大会期間中は、連盟職員 9 名（非常勤 3 名）、本部派遣外部スタッフ 21 名が会場に常勤、このほか地元スタッフ約 50 名（総数）、中国語通訳 2 名が交代勤務で運営にあたった。

【大会事務局】

本部：連盟職員 6 名、スタッフ 1 名

ホスピタリティ：チーフ 1 名、サブチーフ 2 名（うち 1 名は地元スタッフ）、地元スタッフ 6 名、有田ツアー 3 名、中国語通訳 2 名

※ チーフ以外は交代勤務

デイリーブリテン：エディター 2 名

【競技会】

ディレクター：チーフディレクター 1 名、ナショナルディレクター 3 名

運営スタッフ：チーフ 1 名、ハンド組み込み・ビューグラフモニター 8 名（本部派遣）、キャディ 8 名（地元学生アルバイト、交代勤務）

サイドゲーム受付：1 名

【普及広報活動】

広報活動：清水普及事業部長

普及活動：連盟職員 2 名、講師（本部派遣）4 名、講師（九州支部）1 名、地元スタッフ 29 名（交代勤務）

(3) APBF 代表者会議

日時： 平成 24 年 8 月 24 日 19:00～21:30

会場： ヒルトン福岡シーホーク 34 階ペントハウス

参加者： 16 名

(4) 宿泊予約・送迎・旅行関連

大会参加者・関係者の便宜を図るため、以下のサービスを実施した（宿泊・旅行関連業務委託先：九電旅行サービス）

【宿泊予約】

概要： インターネット、連盟会報を通じて公示。ネットシステム、FAX を通じて予約

受付期間：平成 23 年 12 月 13 日～平成 24 年 6 月 30 日

【送迎バス運行】

概要： 多数の利用者が見込まれる3日間に、福岡空港国際線ターミナルビルーヒルトン福岡シーホーク間を無料運行した。

運行日： 平成24年8月24日、26日、9月3日

【ツアーデスク】

概要： ホスピタリティデスクに隣接して九電旅行サービスのツアーデスクを設置した。

期間： 平成24年8月25日～9月1日

(5) 大会関連制作物

本大会の賞品・記念品・広報関連ツールとして以下を制作した。

項目	製作個数	単価(円)	用途など
賞品(文箱・3種類)	計130	25,000	APBF選手権賞品
賞品(陶製プレート・2種類)	各60	3,000	APBF選手権・サイドゲーム賞品
賞品(ロゴ絵皿)	300	6,000	APBF選手権・サイドゲーム賞品、大会記念品
大会プログラム	1000	650	選手・関係者配付
大会記念カード(2デッキセット)	700	1,500	選手配付、大会記念品
トーナメントバッグ	600	750	選手配付
大会ロゴ缶バッジ(2種類)	各1,500	300	選手配付、大会記念品
大会記念スコアブック	500	250	選手配付、賞品
名札用ストラップ(2色)	各500	500	スタッフ、選手
スタッフユニフォーム(2色)	計100	900	スタッフ
ポスター	1,000	600	PR
チラシ	9,500	5	PR(福岡ブリッジまつり)
大会ロゴシール(大小2種類)	各5,000	15	PR
大会レターヘッド	1,000	5	
クリアフォルダー(赤・青)	1,000	100	選手配付、ファンゲーム賞品
大会ボールペン	1,000	100	選手配付、ファンゲーム賞品
クッキー	2,000	44	記念品

2. 競技会

※ 初心者向け競技会は 3.普及活動『福岡ブリッジ祭り』を参照。

(1) APBF 選手権

① APBF コンgressチーム選手権

開催日：平成 24 年 8 月 27 日～8 月 31 日（予選ラウンド）

平成 24 年 9 月 1 日～9 月 2 日（決勝トーナメント）

参加数：オープン 30、ウィメン 11、シニア 8、ユース 8、合計 57 チーム

- オープン（参加資格に制限なし）
オーストラリア 2、韓国 1、クウェート 1、シンガポール 2、タイ 2、中国 8、日本 12、ホンコン・チャイナ 2
- ウィメン（女性のみ）
オーストラリア 2、韓国 1、チャイニーズタイペイ・日本混成 1、中国 1、日本 6
- シニア（60 歳以上）
オーストラリア 1、チャイニーズタイペイ 1、中国 1、タイ・インドネシア混成 1、日本 4
- ユース（26 歳未満）
チャイニーズタイペイ 1、中国 4、日本 3

形式： 予選ラウンド 1 ラウンド 20 ボード、1 日 3 ラウンド

決勝ラウンド 準々決勝 12 ボード 3 ラウンド、決勝 14 ボード 4 ラウンド

結果：

- オープン 30T、2 リーグ、15 ラウンド
1 位 Beijing Evertrust Group（中国）、2 位 HYX CHINA（中国）、3-4 位 China Geely Automobile（中国）、Pan-China Construction（中国）
- ウィメン 11T、20 ボード、11 ラウンド
1 位 Shenyang Olystar（中国）、2 位 Japan Shimamura（チャイニーズタイペイ・日本混成）、3-4 位 Japan Sugino（日本）、Australia BOURKE（オーストラリア）
- シニア 8T、ダブルラウンドロビン、20 ボード 14 ラウンド
1 位 MAGIC EYES THAI（タイ・インドネシア混成）、2 位 Japan NOSE（日本）、3-4 位 Japan YAMADA（日本）、Japan Lycaon（日本）
- ユース 8T、ダブルラウンドロビン、20 ボード 14 ラウンド
1 位 Beijing Yindi、2 位 Shanghai Weiyu、3-4 位 CHN RDFZ 1、CHN RDFZ 2（すべて中国）

② APBF オープンペア選手権

開催日：平成 24 年 8 月 25 日（予選）、8 月 26 日（決勝・コンソレーション）

参加数：80 ペア（決勝 28 ペア、コンソレーション 48 ペア）

結果： APBF オープンペア選手権

1 位 井野正行・寺本直志（日本）、2 位 Zhou Jiahong・Chen Yinglei（中国）、
3 位 Shi Xiao・Li Jianwei（中国）

コンソレーション

1 位 多田武彦・古田美保（日本）、2 位 矢島誠次郎・成田秀則（日本）、
3 位 Zhuo Di・Liu Jing（中国）

(2) サイドゲーム

【リジョナルレイティング競技会】

全国のブリッジプレイヤー及び APBF チーム選手権に参加し予選で敗退したプレイヤーを対象に、福岡チームリジョナル及びストラティファイドペアを開催した。また、例年山笠リジョナルとして開催している福岡市長杯とテレビ西日本杯は、APBF コンgress開催を記念して今年度は本大会期間中の最後の週末に開催した。

① 福岡チームリジョナル (オープン・△1000MP)

開催日：平成 24 年 8 月 30 日 (予選)、8 月 31 日 (決勝)

参加数：オープン 7 チーム、△1000MP 8 チーム (決勝各 4 チーム)

結果： 1 位 松澤信行・波多江隆児・新庄裕司・中山浩次 (オープン)

高橋信子・渡邊洋子・藤原加奈江・平野雅子 (△1000MP)

2-3 位 星維子・高坂めぐみ・内藤悦子・梅津由紀子

田中治輝・東出佳子・後藤豊子・野田景子 (以上オープン)

2-3 位 上野山麻紀・石川温子・中西道子・松川幸子

西洋子・権藤泰子・一ノ瀬聖子・須川恵子 (以上△1000MP)

② ストラティファイドペア

開催日：平成 24 年 8 月 31 日 (オープン・△1000MP)

参加数：オープン 22 ペア、(△1000MP 11 ペア)

結果： 1 位 丹呉和子・蜂巢征子 (オープン)、谷内和歌子・中西祥子 (△1000MP)

2 位 阪口みどり・坂本みどり (オープン)、佐倉寛治・鶴田たづ (△1000MP)

③ 福岡市長杯

開催日：平成 24 年 9 月 1 日 (予選)、9 月 2 日 (決勝)

参加数：60 チーム (決勝 9 チーム)

結果： 1 位 Beijing BEIH (中国)、2 位 Beijing Jing Hua (中国)

④ テレビ西日本杯

開催日：平成 24 年 9 月 2 日

参加数：116 ペア

結果： 1 位 水田実・小林泰、2 位 飯田康代・勝俣敦子

【セクショナルレイティング競技会 (九州支部・福岡ブリッジプラザ担当)】

地元及び全国の一般プレイヤーを対象に、以下の競技会を開催した。試合形式は、初心者や地元プレイヤーが参加しやすいよう配慮して決定した。

① ストラティファイドペア 1

開催日：平成 24 年 8 月 27 日 (オープン・△1000MP)

参加数：オープン 11 ペア、(△1000MP 6 ペア)

結果： 1 位 Brian Senior・石井久美子 (オープン)、権藤泰子・西洋子 (△1000MP)

② ストラティファイドペア 2

開催日：平成 24 年 8 月 28 日 (オープン・△300MP)

参加数：オープン 24 ペア、(△300MP 11 ペア)

結果： 1 位 W K Wong・York Liao (オープン)、松本三知男・田代正毅 (△300MP)

③ イーブンチャンスチーム

開催日：平成 24 年 8 月 29 日

参加数：14 チーム

結果： 1位 兼川早苗・伊藤智子・山本喜代子・須川恵子

④ 新人ペア (△100MP)

開催日：平成 24 年 9 月 1 日

参加数：20 ペア

結果： 1位 正木優子・櫻田実佳

⑤ 新人チーム (△100MP)

開催日：平成 24 年 9 月 1 日

参加数：8 チーム

結果： 1位 高武照佳・高武和子・橋爪鈴子・上垣康与

競技会参加者数一覧

競技会名		カテゴリー		参加者数			日	
				チーム	ペア	プレイヤー		
APBF イベント	APBF チーム戦		オープン ウイメン シニア ユース	30 11 8 8		165 54 41 57	8/27 (月) ~ 9/2 (日)	
	小計			57		317		
	APBF オープンペア	Q F				80 (28) (56)	8/25 (土) 8/26 (日)	
	オープンペア (コンソレーション)					(48)	(96)	8/26 (日)
	小計					80	160	
サイドゲーム (リジョナル)	福岡チームリジョナル	Q Q F F	オープン △ 1000 オープン △ 1000	7 8 (4) (4)		28 32	8/30 (木) 8/30 (木) 8/31 (金) 8/31 (金)	
	ストラティファイドペア		オープン (△1000)			22 (11) 44	8/31 (金) 8/31 (金)	
	福岡市長杯	Q F		60 (9)		257	9/1 (土) 9/2 (日)	
	テレビ西日本杯					116 232	9/2 (日)	
	小計			75	138	593		
	ストラティファイドペア		オープン (△1000)			11 (6)	22 8/27 (月) 8/27 (月)	
	ストラティファイドペア		オープン (△300)			24 (11)	48 8/28 (火) 8/28 (火)	
サイドゲーム (セクショナル)	※ 1 + 1 セッション分 (8/27、8/28)					7	14	
	オープンチャンスチーム			14		56	8/29 (水)	
	新人ペア		△ 100			20 40	9/1 (土)	
	新人チーム		△ 100	8		32	9/2 (日)	
	小計			22	55	212		
	河部杯 (ミニブリッジ)					33	66	8/25 (土)
初心者向け	ビギナーズ杯 1 (午前)		△ 50 (△20)			40 (27)	8/26 (日) 8/26 (日)	
	ビギナーズ杯 2 (午後)		△ 50 (△20)			41 (29)	8/26 (日) 8/26 (日)	
					(午前午後実数)		87	8/26 (日)
	小計					74	153	
合計				154	347	1435		

3. 普及活動『福岡ブリッジ祭り』

開催期間中、『福岡ブリッジ祭り』と銘打って以下のイベントを実施した。

(1) 体験教室

◎ブリッジ体験教室

25日(土)～30日(木)の6日間で計154名が来場し、うち124名が標準の50分コースを体験した。そのほかはそれぞれの都合に合わせて、20分コースや120分クラスなどさまざまなコースで体験してもらった。若い女性がひとりで来るケースも多く、今後は「20～30代の女性」を普及のメインターゲットとする企画も有効かと思われる。また、来場したきっかけは友人・知人の紹介だけでなく、「新聞を見て」という方が多かった。

◎囲碁・チェス・チェッカー・シャンチー各種目の体験教室

25日(土)～26日(日)の2日間で計19名が体験した。

◎お楽しみ福引き

6日間でのべ31名が福引きをした。

(2) 初心者大会

◎河部杯(ミニブリッジ大会)

25日(土)に開催。66名が出場した。

結果： 1位 親泊信雄・永野貴美恵

◎ビギナーズ杯(△50/△20 STFペア)

26日(日)に開催。午前80名、午後82名が出場した。オーバーオール最優秀ペアに任天堂株式会社より賞品としてニンテンドー3DS(1台)、Wii(1台)が提供された。

結果： 1位 午前の部 石井広一・北島健也(△50/△20)

午後の部 奥川清美・三島和子(△50/△20)

◎ウィークリーゲーム(クラス1)

27日(月)～30日(木)の4日間で計30名が出場した。

4. ホスピタリティ

(1) ホスピタリティデスク

開会直前から開催期間中にかけてホスピタリティデスクを設置し、競技会参加者の支援に努めた。

営業日・デスク設置場所：

8月24日～25日 ヒルトン福岡シーホーク宴会フロア正面

8月26日～9月2日 同、ホワイエ ナビスC前

※ 最終日の9月2日は当初12:00までの予定を2時間延長して営業した。

スタッフ： チーフ1名、サブチーフ2名(うち1名は地元スタッフ)、地元スタッフ6名(交代勤務)、有田ツアー3名、中国語通訳2名

	スタッフ	通訳
8月24日～26日・29日	5名	2名
8月27、28、30、31日	2名	1名
9月1日～2日	2名	

(2) その他**【受付業務】**

APBF コンgressチーム戦参加チーム、開会式、閉会式、はっぴーサマーナイトの受付業務はホスピタリティチームが担当した。

【プレイヤーズラウンジ】

ヒルトン福岡シーホークナビス A に設置したプレイヤーズラウンジには、チーム戦のラインナップテーブル、結果速報用モニターを置くとともに、ヒルトン福岡シーホークの協力による喫茶スペースを設置した。

【商品販売】

国際競技会では参加者の記念品に対する需要が高いことから、ホスピタリティデスクで、大会記念グッズを販売した。

【有田ツアー】

ホスピタリティプログラムとして、焼物の町、有田町を訪ねるドイツツアーを企画・実施。詳細は次項参照。

5. 歓迎交流プログラム

国内外からの参加者のための歓迎と、参加者、地元のプレイヤー及び関係者、スタッフの交流を目的に、以下のプログラムを実施した。

(1) 開会式

日 時： 平成 24 年 8 月 25 日 12:00～13:00
 会 場： ヒルトン福岡シーホーク ナビス A・B
 スピーチ： JCBL 会長代行 鳩山勝郎、APBF 会長 Esther Sophonpanich、福岡県副知事 海老井悦子、福岡市副市長 山崎一樹、「APBF2012」福岡委員会委員長 河部浩幸
 司 会： 田名部雅美

(2) 閉会式

日 時： 平成 24 年 9 月 2 日 19:00～22:00
 会 場： ヒルトン福岡シーホーク アルゴス C～E
 スピーチ： JCBL 会長 細田博之、福岡県副知事 海老井悦子、「APBF2012」福岡委員会委員長 河部浩幸
 司 会： 田名部雅美
 余 興： 鏡開き 4 斗底上げ 1 斗樽×2、11 名
 博多券番、博多手一本
 ※ 演じ物の企画・製作は「APBF2012」福岡委員会が担当
 大会写真スライド上映

(3) 有田ツアー（ホスピタリティチーム担当事業）

概 要： 大型バス 2 台で運行。参加者の自己負担料金は昼食料金相当の 2,000 円とした。
 訪問先： 有田町深川製磁、チャイナオンザパーク
 実施日： 平成 24 年 8 月 29 日
 参加者数： 50 名（引率スタッフを除く）
 スタッフ： 引率スタッフ 4 名、中国語通訳 1 名（ホスピタリティチーム）

(4) 展示コーナー（九州支部・「APBF2012」福岡委員会担当事業）

- 概要： 地元文化の紹介、競技会参加者・普及イベント来場者・スタッフの交流の場として、プレイヤーズラウンジの一角に展示コーナーを設置した。
- 開催日： 平成 24 年 8 月 27 日～8 月 30 日
- 展示物： 大牟田市立三池カルタ・歴史資料館及び地元の個人収集家故前田研一氏が収集しためずらしい貴重なかるたやトランプ、地元在住者が制作した伝統工芸品
- 協力： 「APBF2012」福岡委員会
- スタッフ：九州支部 2 名

(5) はッピーサマーナイト（「APBF2012」福岡委員会担当事業）

- 概要： 大会参加者の歓迎と地元文化紹介、参加者同士・地元関係者・スタッフとの交流を目的とする日本の祭りのイメージをテーマとする立食パーティー。「APBF2012」福岡委員会が制作した大会記念半被が APBF コンgressチーム戦参加者及びスタッフ全員に事前に進呈され、パーティー当日はこの半被を入場券代わりに活用した。JCBL は、九州支部が企画・製作に、大会事務局が PR 活動、受付業務で協力した。
- 主催： 「APBF2012」福岡委員会
- 日時： 平成 24 年 8 月 29 日 19:00～21:00
- 会場： ヒルトン福岡シーホーク アルゴス B～D
- 内容： 1 グリーティング（黒田節）
2 主催者あいさつ
3 博多屋台村
4 日本文化で学ぶ
5 参加者交流イベント（コスプレ、ヨーヨー釣り、射的、糸千本）
6 博多金獅子太鼓
7 博多どんたく総踊り
8 PV 放映（福岡観光 PR、博多のまつりなど）
- 参加者数： 418 名
- 総括： 演じ物だけでなく参加型のイベントが多く、また食事もbuffet形式に加えて屋台村が設置されるなど、内容が盛りだくさんの非常にユニークなパーティーであった。参加者全員に好評で、特に海外から参加したプレイヤーに大変喜ばれた。地元からの参加者と国内外から福岡を訪れたプレイヤーとの友好・交流の場として、非常に有意義な催しとなった。

6. 広報活動

大会及びブリッジの PR、競技会及びサイドイベントの参加者・メディア関係者への情報提供のため、以下の広報活動を行った。

(1) 広報宣伝活動**【ウェブサイト】**

平成 23 年 8 月 12 日に開設。英語と日本語で競技日程やイベント情報を提供し、期間中は競技会速報やデイリーブリテンを掲載した。

【記者会見、プレスリリース等】

平成 24 年 7 月 10 日（火） 記者懇談会（会場：福岡ブリッジプラザ）8 社 10 名

8月21日（火） 記者会見（会場：福岡市政記者クラブ）5社10名

8月23日（木） プレスリリース「2012APBF コンgress福岡大会開催！」

【新聞広告等】

西日本新聞記事体広告（7月30日、8月24日）

朝日新聞北九州版（8月10日、12日、13日、15日、24日）

スカイマーク機内誌記事体広告（7月号、9月号、11月号）

日経おとなのOFF（6月号、8月号、9月号）

信金カード会員誌「はれ予報」（5月号、6月号、9月号）

アヴァンティ福岡（9月号、11月号）

【その他】

- 駅貼りポスター（西新駅、唐人町駅）8月20日（月）～9月2日（日）
- 『福岡ブリッジ祭り』チラシ（A3・700枚、A4・8800枚）

(2) 取材・掲載メディア

【新聞記事等】

8月13日（月） 西日本新聞朝刊 トランプゲームのキング「ブリッジ」国際大会開催

8月18日（土） 毎日新聞夕刊（北九州） 英国生まれのトランプ「コントラクトブリッジ」国際大会 福岡市で開催

8月21日（火） 西日本新聞朝刊（宮崎、鹿児島） トランプゲーム「ブリッジ」25日から国際大会

8月24日（金） 朝日新聞朝刊（福岡） トランプゲーム 福岡で国際大会

8月26日（日） 西日本新聞朝刊 ブリッジ国際大会開幕 福岡市で国内初の親善大会

【専門誌等】

2012年9月号 財界九州 第7回 APBF コンgress 8月25日から福岡市で開催

2012年10月号 財界九州「コントラクトブリッジ」の世界大会、福岡で初めて開催

【その他】

公益財団法人福岡観光コンベンションビューロー機関紙「Ocean's Fukuoka」（2012夏号）

タマホーム株式会社 TamaHome 公式ブランドチャンネル

III. 会計報告

科目	予算	決算	差額
1. 事業活動収入			
競技会収入	15,187,000	13,325,100	1,861,900
雑収入	0	10,960	△ 10,960
国際大会準備金より繰り入れ	59,338,000	49,628,142	9,709,858
事業活動収入合計	74,525,000	62,964,202	11,560,798
2. 事業活動支出			
給料手当	280,000	0	280,000
臨時雇賃金	6,289,000	6,538,600	△ 249,600
諸謝金	4,169,000	3,276,250	892,750
旅費交通費	12,719,000	11,003,552	1,715,448
通信運搬費	608,000	588,058	19,942
賃借料	18,142,000	14,972,024	3,169,976
支払助成金	5,720,000	4,059,070	1,660,930
広告宣伝費	2,842,000	1,716,330	1,125,670
消耗品費	4,156,000	2,316,664	1,839,336
印刷製本費	2,942,000	2,160,066	781,934
賞品費	3,997,000	5,905,980	△ 1,908,980
会議費	9,178,000	9,794,647	△ 616,647
交際接待費	583,000	625,496	△ 42,496
支払手数料	0	7,465	△ 7,465
雑費	100,000	0	100,000
予備費	2,800,000	0	2,800,000
事業活動支出合計	74,525,000	62,964,202	11,560,798

収入については、コンgress本戦及びサイドゲームへの参加者が予想を下回った（注）ため、対予算比約 185 万円の減収であったが、支出が約 1,156 万円減となったため、赤字額（国際大会準備金よりの繰入額）が約 970 万円下回る結果となった。

（注） 上記とは別枠の予算で実施した平日のサイドゲームや普及イベントの参加者数は、概ね予想通りまたは予想を若干上回る水準であった。

IV. 総括

連盟（以下 JCBL）にとって APBF 選手権を開催するのは今回が 4 度目となる。このほか、世界選手権を 1 回、1980 年代に開催したセイコーエプソン杯（3 回）、1995 年から続いている NEC ブリッジフェスティバルなど多数の国際大会を主催してきており、こうした経験を通じて国際大会運営ためのノウハウを蓄積してきた。このノウハウを最大限に活かすため、本大会では NEC ブリッジフェスティバルの運営に携わってきたスタッフを中心に人員体制を整えた。海外からは、リチャード・グレンサイド氏を主任ディレクターとして、またバリー・リーガル、リチャード・コーカー両氏をデイリーブリテンエディターとして迎えた。他の競技会運営スタッフも NEC ブリッジフェスティバルの運営経験者を中心に選任した。その一方、ホスピタリティデスクには、様々な側面から参加者のニーズに対応すべく、国際大会の経験が豊富でブリッジトーナメントにおけるホスピタリティ業務に精通しているチーフを本部から派遣するとともに、周辺事情に詳しい地元プレイヤーにスタッフを依頼した。この結果、開催期間中を通して円滑に大会の運営を遂行することができた。

今大会のスコア集計にはブリッジメイトを使用した。オープンルーム、クローズドルームにそれぞれ 1 台ずつブリッジメイト・サーバーを接続したコンピュータを設置し、ネットワークに接続した別室の 2 台のコンピュータで JTOS を起動、1 台はオープンチーム 2 セクションを、もう 1 台はウィメン、シニア、ユースの集計を行った。サイドゲームもほぼすべての競技会でブリッジメイトを使用し、集計の迅速化・省力化に役立った。

今回の会場はヒルトン福岡シーホークの宴会場を使用した。同ホテルに宿泊したプレイヤーにとっては、客室階から 1 階に降りるとすぐ試合会場がある利便性の高い会場である。競技会場階全体の天井が高く、部屋も広々としていて、ホテル側の協力により喫茶スペース付きで実現したプレイヤーズラウンジとともに、参加者に大変好評であった。

宿泊予約については基本的に九電旅行サービスにインターネットまたは FAX で申し込む形式で予約を募集した。6 月 30 日を申込期限としたが、海外からの参加者を中心に期限後の宿泊申込が多数あり、連盟事務局で個別に対応した。

今大会にゾーン 4 から唯一クウェートからの参加があったが、5 日間の予選の期間中、3 日目の途中で一部のメンバーが大会本部に無断で帰国したため、その後の対戦ができなくなるという事態が発生した。同チームとの対戦結果はすべて取り消され、そのために決勝ラウンドに進めなかった可能性のあるチームもあり、その意味において後味の悪い結果となった。次回の APBF コンgress開催国が決定したら、再発防止のため、本件について連絡することにした。

今大会では普及体験コーナーにも力を入れ、大会期間中『福岡ブリッジ祭り』を開催した。APBF 選手権との併催は初めてのことである。この普及イベントにおいても NEC ブリッジフェスティバルで培ったノウハウを活かし、マインドスポーツ体験教室や初心者大会、講習会などの企画を準備して臨んだ。事前の広報活動及び地元プレイヤーや「APBF2012」福岡委員会の協力もあり、来場者数・参加者数は概ね予想を上回った。

今大会は首都圏・阪神地区以外で開催した初めての国際大会であるとともに、JCBL

にとって初めての APBF コンgressであった。首都圏から遠距離に位置する地方都市で、JCBL にとって過去最大級の規模の国際大会を開催するには、地元の方たちの協力と連携が不可欠であった。今大会では準備段階から数年越しで、「APBF2012」福岡委員会、九州支部関係者、及び地元のブリッジ愛好者などの地元の皆様より、事前 PR、集客協力、運営スタッフとしての参加、文化交流イベントの企画・実施、地元文化紹介など、様々な形で多大なるご支援・ご協力を賜った。国内外からの参加者からは、福岡委員会の主催による歓迎パーティー「はっぴーサマーナイト」や地元文化を紹介する展示コーナーなど、競技会以外の側面についても非常に満足度の高い大会であったとの感想も多く寄せられ、国際親善、文化交流の面で大いに貢献していただいた。末筆ながら、改めてご協力いただいた地元の皆様に厚く御礼申し上げる。

今回の経験を活かし、次回 APBF 選手権またはコンgressを開催する際にはさらに円滑な運営を行うことを目指したい。

